

寒いのは仕方ないとして、雨が降らない風が強い砂ぼこりが舞う、は勘弁してほしいものです。まあこの時期、雨や雪でももっと困るのですが。そんな中でも、元気に体操し庭かけ回り、外で作品（段ボール）に色を塗る子どもたち。大人にないスゴさです。朝のあそびの時間、年長の子が自分で帽子を投げて少し高い木の枝に引っかかってしまっていました。とってあげようかなと思っているうちに、クラスの仲間がどんどん集まり、木の枝を探してきたり、背の高い子が頑張ったりして自分たちで見事に落とし歓声をあげていました。子どもたち仲間同士での解決方法をしっかり身につけているようです。

3 学期に入り、クラスでの子どもたちの姿がまた少し変わっているような気がします。毎日一緒にいるともしかしたらわからないかもしれませんが、たまにふらっとそれぞれのクラスの様子をうかがうと「当たり前のようにそこでせいかつしている」感が増していると思うのです。きっとそう思うのは、今現在も2 学期のこどもかいまでの映像を見続けているから、時代に取り残されているからでしょう。映像の中の彼らはどこかしら表情や動きに戸惑いが見てとれたり、周りが見えていなかったり・・・発展途上といったところでした。その雰囲気は今では、地に足がついていると言ったらいいのか安定感があり、何より彼らの表情がさわやかなのです。これは先生も含め子どもたちが前向きに園生活を送っている証拠であり、一人ひとりがクラスに存在していることを、自分も、周りも当たり前と感じているからで、そんな自然体な雰囲気をとてもうれしく思います。

今、先生たちが大切にしていることは「やりとりを通して子どもたちの育ちに気付いたり考えたりする」ことです。先生と子ども、子ども同士、チームでのやりとり、クラス全体でのやりとりにもっと意識して耳を傾けることで、今まで以上に子どもたちの成長を感じ取れるはずだと考えています。

これから「さくひんてん」ですが、作品はもちろん、作品以外の部分でも、そんな風になった子どもたちが生活している場所なんだ！と思って、クラスとして、また園として、ご覧になっていただくと幸いです。

今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）

3歳

- ・ 身の回りのことを自分でしようとする
- ・ 仲間と一緒に生活する楽しさがわかって、よろこんで活動に参加する
- ・ “こうしたい”という子どもたちの思い描いたものやこだわりを生かしながら、作る楽しさを体験する

4歳

- ・ 集団での役割あそびのおもしろさがわかり、進んで遊びに入っていける
- ・ 自分たちの問題は、仲間と一緒に解決していこうとする芽を育てる
- ・ クラスのみんなとのつながりを感じ、その中にいる自分をうれしいと思う

5歳

- ・ 目標に向けて力を出しきり、やり遂げる喜びを味わい、友達とのかかわりの中で自信を感じられるようにする
- ・ 一人ひとりが得意な分野で実力を最大限に発揮でき、互いにそれを認め合える
- ・ 相手の意見を認め合いながら、みんなで1つの結論が出せる